

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34  
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : [takahara@tachibana-u.ac.jp](mailto:takahara@tachibana-u.ac.jp)

郵便振替口座：001704-4-56341

編集責任者：高原正興（庶務理事）

### 【目次】

1. 第32回大会のお知らせ	2
2. 渉外・広報委員会からのお知らせ	3
3. 会員コーナーⅠ（リレーメッセージ）	5
4. 会員コーナーⅡ（近況報告）	6
5. 会員異動	7
6. 事務局より	7

### 重要事項

1. 第32回大会は9月24日（土）25日（日）に福岡県立大学にて開催される予定です。
2. 第32回大会における自由報告の申込の〆切は6月30日（木）です。
3. まもなく理事選挙が始まります。また、会員名簿を作成します。ご協力の程よろしく。

## 1. 第32回大会のお知らせ

第32回大会は、2016年9月24日(土)・25日(日)の両日、福岡県立大学にて開催されます。研究委員会では、今年度のシンポジウムのテーマを「生活困窮の問題の現状と課題」と決定しました。ホームレス支援法施行以降、生活困窮自立支援法の施行にいたる現代日本社会の現状を、現在進行形の取り組みを含めて提示し、社会的排除と包摂の観点からその課題と問題点を浮き彫りにすることを目的としています。登壇者は、神原文子(神戸女学院大学)・妻木進吾(龍谷大学)・稲月正(北九州市立大学)の3名の先生方にお願ひし、大会1日目の午後に開催する予定です。

研究委員会企画のテーマセッションは、今回は見送り、テーマセッションとRTDの公募を行います。公募形式によるテーマセッションおよびRTDに応募される方は、企画者名・テーマタイトル・企画の趣旨・報告者案等(A4版1枚:書式自由)を6月30日(木)までに進藤(shindou@lit.osaka-cu.ac.jp)宛連絡下さい。委員会にて選考の上、採否を決め、結果を連絡いたします。

最後になりましたが、自由報告を希望される方は、日本社会病理学会HP(<http://socproblem.sakura.ne.jp/format/format.html>)より自由報告申込書をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、6月30日(木)までに進藤(shindou@lit.osaka-cu.ac.jp)宛連絡下さい。報告要旨の締め切りは、7月末日を予定しています。なお以下の諸点に留意下さい。(1)自由報告部会は9月25日(日)の午前です。(2)報告時間は質疑応答を含めて25分、報告は20分以内として下さい。(3)大学院生の報告には旅費の補助制度があります。上記のHPから旅費補助申請用紙をダウンロードし、自由報告申込書とともに送付下さい。是非、積極的な応募をお願いいたします。

(研究委員会委員長・進藤雄三)

## 宿泊・交通案内

福岡県立大学が立地する田川市内には宿泊施設が少ないことをお含みおきください。設備も「東横イン」クラスとお考え下さい。過去に学会を開催した時は、隣接する飯塚市や北九州市、さらには福岡市に宿泊される方が多かったです。ただし、これらの都市からの交通の便は決して良いものではありません。公共交通機関はございますが、便数は多くありません(1時間に1本程度)。

### ◆田川市(福岡県立大学)への交通アクセス

#### ①北九州市～田川市

- ・JR日田彦山線 小倉～田川伊田(62分)
- ・西鉄バス快速 小倉駅/平和通り～南大通(70分程度)

#### ②飯塚市～田川市

- ・JR後藤寺線 新飯塚～田川後藤寺(21分) → (乗換) → JR日田彦山線 田川後藤寺～田川伊田(3分)

(田川後藤寺駅～田川伊田駅は一駅ですので、タクシーで直接、福岡県立大学に乗り付ける方が多いです)

・西鉄バス特急 新飯塚駅～後藤寺バスセンター（30分程度）→以後はタクシーが無難

### ③福岡市～田川市

・西鉄バス特急 天神高速バスターミナル～福岡県立大学（約90分）

（以上、大会実行委員 中村晋介）

## 2. 渉外・広報委員会からのお知らせ

### 1. 日本社会病理学会第32回大会

日程：2016年9月24日（土）・25日（日）

会場：福岡県立大学（大会実行委員長：中村晋介）

### 2. 2016年度国内学会大会（掲載は日程の早い順）

#### ◎日本司法福祉学会第17回（2016年度）大会

日程：2016年8月27日（土）・28日（日）

会場：甲南大学岡本キャンパス

#### ◎日本犯罪心理学会第54回（2016年度）大会

日程：2016年9月3日（土）・4日（日）

会場：東洋大学白山キャンパス

#### ◎日本社会福祉学会第64回（2016年度）秋季大会

日程：2016年9月10日（土）・11日（日）

会場：佛教大学紫野キャンパス

#### ◎日本家族社会学会第26回（2016年度）大会

日程：2016年9月10日（土）・11日（日）

会場：早稲田大学戸山キャンパス

#### ◎日本社会学会第89回（2016年度）大会

日程：2016年10月8日（土）・9日（日）

会場：九州大学伊都キャンパス

#### ◎日本家族心理学会第33回（2016年度）大会

日程：2016年10月14日（金）～16日（日）

会場：聖徳大学

#### ◎日本犯罪社会学会第43回（2016年度）大会

日程：2016年10月29日（土）・30日（日）

会場：甲南大学

#### ◎日本犯罪学会第53回（2016年度）総会

日程：2016年12月3日（土）

会場：東京医科歯科大学

#### ◎日本更生保護学会

日程：2016年12月10日（土）・11日（日）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

（以上、渉外・広報委員会 矢島正見）

### 3. 国際会議のお知らせ

\*第8回アジア犯罪学会大会は、2016年6月18日(土)と19日(日)に、北京 Friendship Hotel で開催されます。

\*第18回世界犯罪学会議は、2016年12月15日(木)から19日(月)の5日間、インドのデリーの O.P. Jindal Global 大学で開催されます。

### 4. 日本犯罪学関連学会ネットワークの活動の報告

\*日本犯罪学関連学会ネットワークは、神戸で世界犯罪学会議が開かれたのち、2012年3月に発足しています。2015年度は、本学会が幹事学会をつとめました。2016年3月12日(土)に開催された第5回定例代表者会議において、2016年度に向けて、幹事学会を日本司法福祉学会に引継ぎました。

\*本ネットワークでは、2017年9月に國學院大學において犯罪学合同大会を開催する準備を始めています。参加予定の学会は、本学会の他に、日本犯罪学会、日本犯罪心理学会、日本犯罪社会学会、日本司法福祉学会です。本学会からは、横山實会長と庶務担当の高原正興理事が準備委員会に加わっています。また、森田洋司前会長と矢島正見元会長が準備委員会顧問に就任しています。

(以上 横山實)

### 3. 会員コーナー I (リレーメッセージ)

「犯罪者を家族にもつ人びとの自己へのまなざし」

高橋康史（筑波大学大学院／日本学術振興会）

私は犯罪者を家族にもつ人びとのスティグマについて研究しています。具体的には、犯罪者を家族にもつ人びとへのインタビュー調査をもとに、彼／彼女らの視点からスティグマ経験を捉えることを目指しています。彼／彼女らのスティグマの特徴の1つは不可視性をもつことです。まず、2つの映画を参照することで、犯罪者を家族にもつ人びとのスティグマが一般的にどのように理解されているのかを確認したいと思います。

はじめに、映画『誰も守ってくれない』（2008年）です。この映画では、殺人容疑で逮捕された少年の妹が、兄が起こした事件が世に知られることによって、周囲に彼女の個人情報が大々的に暴露されてしまう経験が描かれています。メディアスクラム、ボーイフレンドからの裏切り、ネットでの個人情報の露呈を経験し、彼女は「殺人犯の妹」ということを社会に知られてしまっているなかで生きていかなければならないことを実感します。

また、映画『手紙』（2006）では、強盗殺人犯の弟のライフヒストリーが描かれています。『誰も守ってくれない』とは対照的に、主人公が「殺人犯の弟」という事実を周囲に知られていない状況も経験していることが特徴です。主人公は生きていくために「殺人犯の弟」であることを隠しながら、恋人、友人といったあらゆる人間関係を形成していきます。しかし、ことあるごとに自分自身が「殺人犯の弟」であることが知られてしまいます。

以上の映画に対して、私が行っているインタビュー調査では、彼／彼女らが社会や他者に「犯罪者の家族」であることが暴露されてしまう経験をもつわけではないことが明らかになっています。調査にご協力をいただいているご家族の皆さまは、差別的な経験がなくとも、日常的に自分に対するうしろめたさを感じておられることを語られています。スティグマは、Goffman が論じてきたように、社会や他者に秘密が暴露されることで生じるものであると理解されてきました。一方で、彼／彼女らの場合は、秘密の暴露がない場合も、彼／彼女ら自身のなかで自分のもつ異質性と向き合っておられます。

その理由は、犯罪者を家族にもつ人びとがスティグマを負わない時期を経験しているため、常人としての自分も存在している場合があるからです。したがって、彼／彼女らにとってスティグマとは、他者と自己との関係だけでなく、自己と自己との関係で生じるものだと考えられます。こうした犯罪者を家族にもつ人びとのスティグマについて、不可視性に注目しながら研究を進めています。なお、この研究課題は、不可視性を伴うスティグマをもちながら生きてきた私自身の問題でもあります。

会員の皆様にご意見をうかがう機会も多くあると思います。その際にはどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 4. 会員コーナーⅡ（近況報告）

### ○大山小夜（金城学院大学人間科学部）

#### (1) 最近の研究テーマ・関心事

日本社会学会『社会学評論』誌上で「現代社会と生きづらさ」をテーマに論文を公募、「境界性パーソナリティ障害」「ひきこもり」「薬物依存症」「ルックス至上主義」「犯罪被害者遺族・自死遺族」に関する5つの論文を採択、最新号に収録しました。また、D・クレッシーの横領研究（1955）が企業の不正対策に与えた影響の大きさを知り、逸脱研究の重要性を再認識しました。

#### (2) 著書・論文等

2016「公募特集『現代社会と生きづらさ』」日本社会学会『社会学評論』264号：446-551。  
（有末賢・大山小夜（編集担当））  
2016（秋刊行予定）工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編著『基礎ゼミ 社会学』世界思想社

### ○大山治彦（四国学院大学社会福祉学部）

#### (1) 最近の研究テーマ・関心事

男性に対するジェンダー政策、公共サービスに関する研究をしております。具体的には、スウェーデンの「男性のための危機センター」について調査中です。また、MAM（Men have sex with men）を対象とするHIV/AIDSの予防啓発研究に着手しております。

#### (2) 著書・論文等

2010「ジェンダー J. マネー/P. タッカー『性の署名』」井上俊・伊藤公雄編『近代家族とジェンダー』世界思想社：157-166。  
2012「現代家族とジェンダー・セクシュアリティ」松信ひろみ編著『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち』八千代出版：157-180。  
2014「セクシュアリティ」日本家政学会家政教育部会編『家庭生活の支援—理論と実例—』建帛社：54-60。

### ○岡邊健（山口大学人文学部）

#### (1) 最近の研究テーマ・関心事

「非行からの立ち直り」に関心を持っています。法務総合研究所が実施中の少年院出院者の追跡調査に、共同研究の形で関わらせていただいております。また、これとは別にこの春、とある更生保護施設において縦断的なインタビュー調査を開始するところです。

#### (2) 著書・論文等

2014『犯罪・非行の社会学——常識をとらえなおす視座』有斐閣（編著）  
2014「少年院出院後の少年への保護者の関わり方と少年の変化」『法務総合研究所研究部報告』54：124-133。  
2015「計量分析からみるわが国の少年非行——再非行の状況を中心に」『刑政』126（6）：46-59。  
2016「少年非行」日本社会病理学会監修，高原正興・矢島正見編『関係性の社会病理』：50-68。

○金子雅彦（防衛医科大学校医学科）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

2012年に公刊した拙著の延長線上で、日本とイギリス（及び各国）の医療制度、特に医療提供システムについて研究しています。また、アメリカのメディカルスクール入学試験（MCAT）に取り入れられた社会学関連項目を参考にして、社会学の授業をしています。

(2) 著書・論文等

2012『医療制度の社会学：日本とイギリスにおける医療提供システム』書肆クラルテ  
2016「イギリスと日本の政治行政制度と公衆衛生体制の類型」『公衆衛生』80（1）  
：63-66.

2016「日本における医療機能の分化・連携策に関する一考察：パーソンズ理論による整理」『防衛医科大学校進学課程研究紀要』39：39-54.

## 5. 会員異動

個人情報につき削除

## 6. 事務局より

### 1. 過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元のない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年（第1～4回大会）

### 2. 会費のお支払いについて

2016年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2015年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

(1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」（会則第19条2）という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。

(2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事

務局よりお知らせします。

(3) 2011 年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が 15 年以上で 70 歳以上の方が対象となります。終身会費として 5,000 円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌 1,500 円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。

(4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さるようお願いします。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

### 3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail 可）にて事務局までお知らせ下さい。

### 4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp>) からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

### 5. NL80 号の訂正

p.9「日本家族心理学会第 32 回大会」の「大会実行委員長・堤圭史郎」は削除願います。訂正してお詫び申し上げます。

以 上